

② 自然災害リスクコンサルティング

地球温暖化が原因と見られるゲリラ豪雨などにより、近年雷害リスクが高まっています。最近の電気・通信関連設備の発展は目覚しく、企業活動にとって欠かせないものといっても過言ではありませんが、これらのシステムは電圧の変動に弱い側面を持っており、雷による被害が最近多くなってきています。MS&ADインターリスク総研では、お客様の施設を詳細に調査し、最適な雷害対策をご提案いたします。また、弊社ご提案に基づき落雷対策工事までご支援いたします。



自然災害対策に関するお困りごと

弊社に寄せられている、企業の皆様からのご相談内容

自社の事業所に関する課題

- ・ 南海トラフ巨大地震で大きな被害が予想されるが、何から手を付けてよいか分からない。
- ・ 事業所が川の近くにあり水災が不安だが、どのような対策をしたらよいか分からない
- ・ 日本全国に多くの事業所を抱えているが、地震、洪水などあらゆる自然災害リスクについて一斉点検するように上層部から指示されている。

サプライチェーンに関する課題

- ・ 部品納入先から災害発生時のBCPについて説明を求められているが、まだ検討中である。

従業員や来場者の安全に関する課題

- ・ 多くのお客様が来場する施設だが、安全な避難誘導ができるか心配
- ・ 毎年の防災訓練がマンネリ化しており、防災に対する意識が向上しない
- ・ 自然災害が頻発しており、従業員の災害補償制度の積立金が不足しないか不安だ

海外事業所に関する課題

- ・ 海外事業所の自然災害リスクについては現地まかせで、本社で把握できていない

当社で実施したコンサルティングの実例

- ・ 国内全事業所の地震、洪水、高潮リスクに関するハザードマップを調査し、危険度判定をして見やすい一覧表にした。(A社 総務部)
- ・ 工場付近の河川氾濫シミュレーションを実施し、浸水危険が高い電気設備や地下の浸水防止対策工事するための参考資料とした。(B社 リスクマネジメント部)
- ・ 地震リスクを対象として、専門スタッフによる工場の現地調査を行い、リスクの現状と実施すべき対策についての洗い出しを行った。(C社 安全環境部)
- ・ 10年前に作成した、大規模地震を想定したBCP(事業継続計画)を全面的に見直し、改訂版を作成した。(D社 総務部)
- ・ 役員向けBCP訓練を実施し、BCPの理解と課題の洗い出しを行った。(E社 危機管理部)
- ・ 防災・避難訓練に関するアドバイスを受け、内容を見直し、より効果的な訓練と、改善点を把握した。(E大学 総務部)
- ・ 数多くの海外事業所の自然災害情報を一覧化し、本社でも把握できるようにした(F社 海外事業部)
- ・ 海外工場の洪水シミュレーションを実施し、浸水防止対策を再検討した。(G社 海外現地法人)

インターネットにより弊社ウェブサイトよりお問合せください。
その際に、ご相談内容の概要を記載ください。

弊社コンサルタントが、お電話、Web会議システム、ご訪問などの方法により、ご相談内容の詳細について確認し、貴社に最適なコンサルティングメニュー、費用、期間などのご提案をいたします。

ご利用料金

ご要望内容の詳細をお伺いし、個別にお打合せさせていただいた後に算出の上、ご案内させていただきます。
(なお、交通費、宿泊費については、実費相当額を請求させていただきます。)

お問合せ先

MS&ADインターリスク総研株式会社 リスクマネジメント第一部 災害リスクグループ
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-105 ワテラスアネックス TEL.03-5296-8917 <https://www.irric.co.jp>